

平成27年度 後期学校評価結果

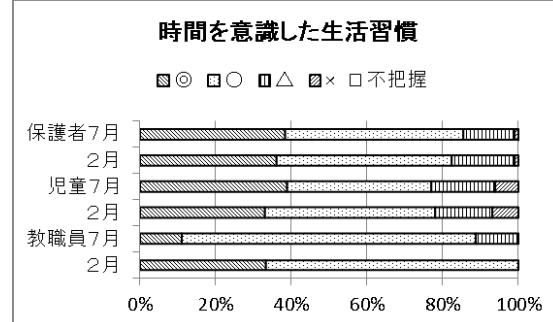
京都市立広沢小学校

先日は第2回目の「学校評価アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。結果がまとまりましたので、報告させていただきます。

保護者の方には今年度、一部項目を「子どもへの働きかけ」という視点からご回答いただいているが、主にお子様の実現度を答えていただいている。また、児童は自分自身の振り返りを、教職員は自分自身がどれだけの指導をしているかの振り返りをしています。今回は前回との比較ができるように、2回分と3者のグラフを並べて表示しました。

グラフについては、全て棒の左から○(よくできている)、○(大体できている)、△(あまりできていない)、×(できていない)の評価で表しています。

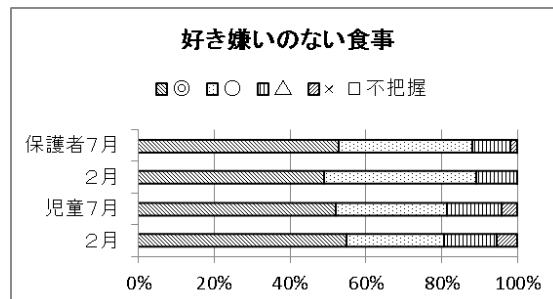
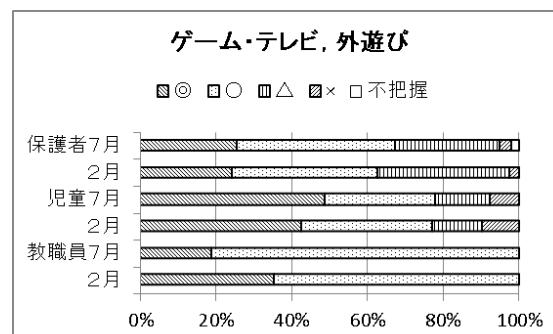
健やかな体の育成について



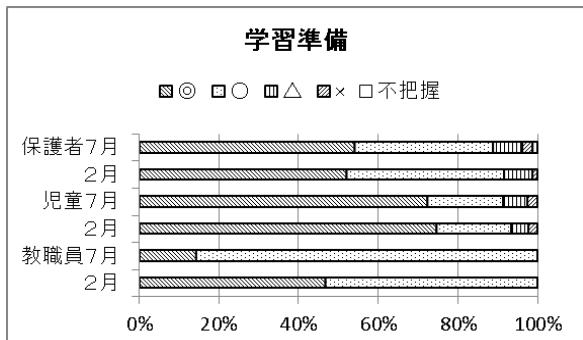
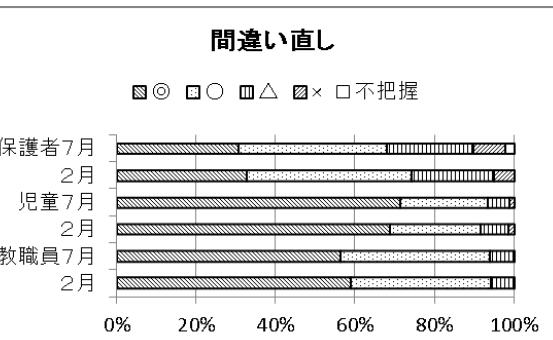
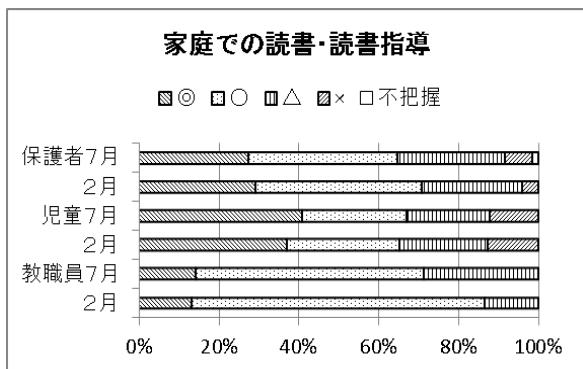
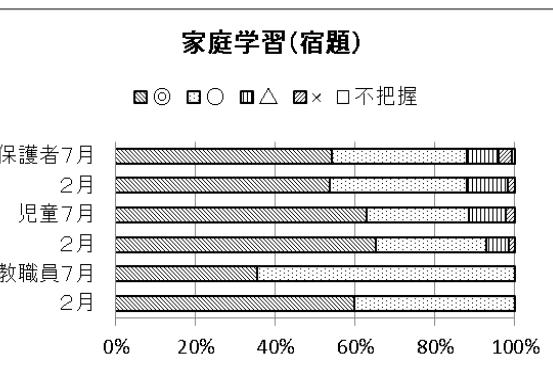
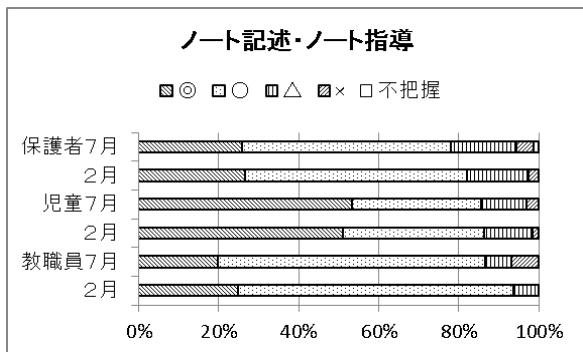
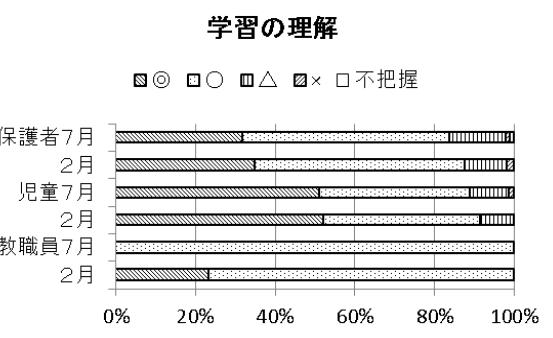
「早寝・早起き、時間を意識した生活」は、児童のプラス評価(○、○)は7月に比べて若干増えています。しかし、学年別にみてみると、4年生以上では8割を切り、特に○をつけた児童は2割前後でした。早寝・早起きができていないという理由から自己評価をした児童も少なくないと考えられますが、学校にいる間はもちろんのこと、帰宅後も時間を上手に使って、早寝・早起きにつなげていってほしいと思います。

「ゲームやテレビの時間を決め、進んで外遊びをする」については、保護者・児童ともに7月に比べてプラス評価が少し下がりました。2月という時期でもあり、放課後や休日を家庭で過ごす時間が増えたのではないかと考えられます。

小学生にとって、早寝早起きをすることや、外で思いっきり体を動かすこと、そして好き嫌いなく食事をしてしっかり栄養を取ることは、心身の成長や健康にとても大切なことです。自分の健康のためにどんな生活を送ればよいのか、自分で考え、行動できる子どもになってほしいです。



確かな学力の育成について

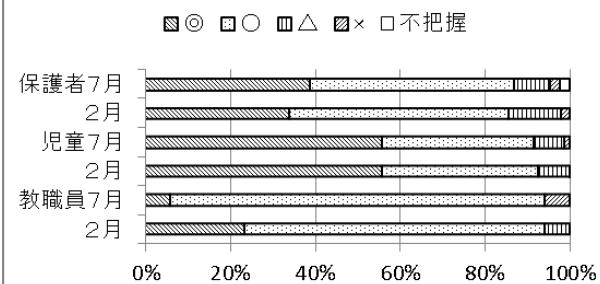


「学校の勉強が分かる」「自分の思いや考えを進んでノートに書く」「家庭学習」については、保護者・児童とともに7月よりもプラス評価が多くなりました。また、教職員の評価も上がっており、保護者・教職員がそれぞれ働きかけたり指導したりしたことが功を奏したように思います。ただ、もう一方でマイナス評価があることも忘れてはいけません。全ての子どもが「わかった」「楽しい」と思えるような授業のあり方、学習の仕方などをこれからも探っていきたいと思います。

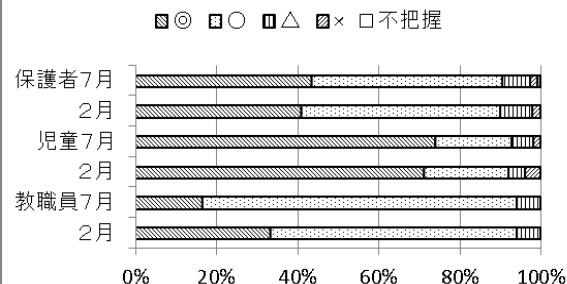
「おうちで読書」については、1~3年生は8割近くがプラス評価をしているのに対し、4年生以上は5割前後と、その割合が大幅に低くなりました。高学年になると放課後も忙しくなり、なかなかゆっくりと読書をする時間がとれないのかもしれません。学校でも図書館の活用を充実させるなど、子どもたちが本に興味をもてるような取組を工夫していくたいと思います。ご家庭でも、地域の図書館に足を運んでいただいたら、本屋さんへ立ち寄っていただけたら嬉しいです。

豊かな心の育成について

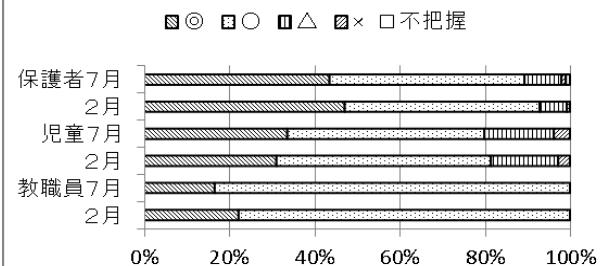
学習規律



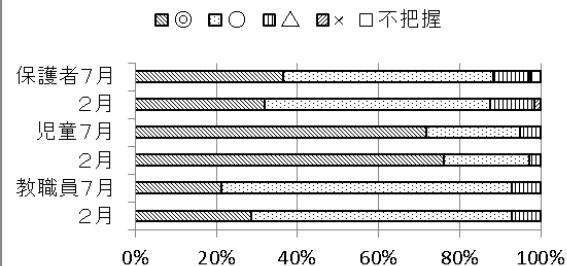
学校生活の楽しさ



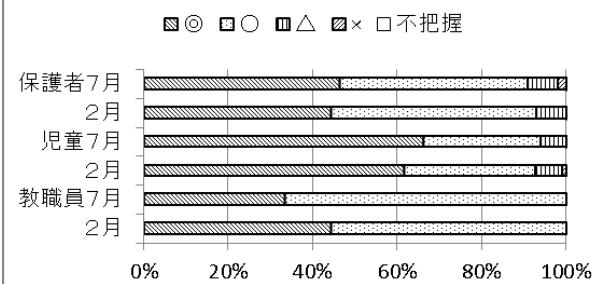
言葉づかい



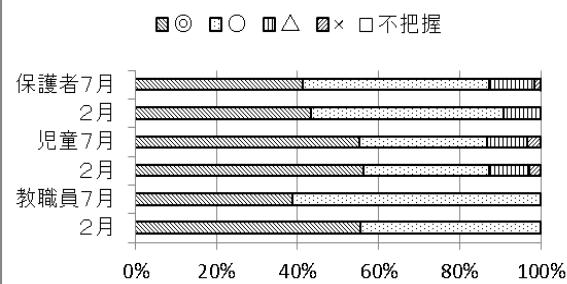
仲間を大切に



きまりを守る



気持ちのよいあいさつ



「友だちを大切にしている」については、プラス評価をしている児童の割合が7月に比べて多くなりました。児童会が中心となって「クラスの自慢を発表しよう」や「学級目標は守れているかな」といった年間の振り返りを行った中で、改めて子どもたちの中に「友だちを大切にしていこう」という意識が強くなったのかもしれません。楽しく学校生活を送るためにも、友だちと仲良くすることをこれからも意識していってほしいです。

「優しくていねいな言葉を使う」については、保護者の評価に比べて児童の評価が低くなっています。ご家庭で働きかけていただいているものの、子どもたち自身が「できていない」と捉えているのでしょうか。ついつい、その時の感情や状況によって、荒っぽい言葉を使ってしまっている場面も見かけます。常にすることは難しくても、言ってしまった後で自分を振り返れるように、そして“ふわふわ言葉”が飛び交う、みんなが仲の良い広沢小学校をめざしていきたいと思います。

学校運営協議会のご意見

- 登下校の見守りをしているが、子どもたちは気持ちのよいあいさつをしてくれる。あいさつする習慣は身についているのではないか。
- 「学校生活の楽しさ」の項目で、児童の評価が7月と比べて若干下がっているのは、学年末になり、いろいろなことがマンネリ化してきているからだろうか。
- このアンケートはここ数年継続されていて、評価もほぼ定着してきていると思う。来年度は同じ項目でも違う視点から尋ねてみたり、広沢校の特色である英語について尋ねてみたり等、評価項目を変えていいともいいのではないか。

前期の学校評価の結果を踏まえ、後期に取り組んできたことに高い評価が得られたように思います。

保護者の方の評価については、大きくプラス評価が減った項目もなく、10項目でプラス評価が増えました。

児童の評価については、プラス評価が上がった項目は8項目でしたが、マイナスとなった項目も2ポイントまでで、全体としてみると高い評価となりました。

また、保護者のプラス評価が上がっている項目は、児童のプラス評価も上がっていることから、保護者の方と児童が学校の取組の成果を同じように感じ、それが高い評価になって表れたように思います。

教職員については、どの項目も高いプラス評価で、◎(よくあてはまる)の割合が増えた項目が14項目ありました。前期の取組の充実を図ったり、児童一人一人の課題を見極めて支援を行ったりしたことで、前期以上に保護者の方の理解や協力を得られ、児童が学校で意欲的に行動できる姿が増えたように思います。その結果、教職員自身も、自分の取組が効果的であったと感じることができたのではないでしょうか。

今回の結果に満足することなく、来年度以降も、広沢小学校の特色ある健康教育や英語・外国語活動の取組を継続し、広沢教育のさらなる充実を図っていきたいと思います。

